

平成 23 年 12 月 21 日

市川市長
大 久 保 博 様

市川市市政戦略会議
会長 栗 林 隆

答 申

平成 22 年 10 月 1 日付け市川第 20100928-0078 号で諮問を受けた事項のうち、(1)行財政改革②施設のあり方について、平成 23 年 11 月 19 日に「施設の有効活用にかかる公開検討会」を実施し、その検討結果及び提言をまとめたので答申いたします。

なお今後、本答申を熟慮のうえ、答申結果についての対応方針を公表するよう求めます。

「施設のあり方について」答申 検討結果及び提言

1. 《文化施設》

<A1>

名称	水木邸
概要	本市を代表する文化人で女性脚本家の水木洋子氏が生前に暮らしていた自宅を公開。現在は生活資料を中心に展示している。
課題	<p>①水木邸を通年で公開した場合、来訪者数に比して委託料が高くなることから、開館日は毎月第 2, 4 土曜日及び日曜日のみに限定せざるを得なくなっている。</p> <p>②来訪者 1 人当たりの一般財源持出額は 1, 518 円という額になっている。</p>
諮問事項	資産の保全、文化振興、運営コストの 3 者のバランスが取れた運営手法について。
提言	<p>コストを抑制しながら、来訪者数の増加と人々に水木氏をより深く知っていただくための策に取り組むべきである。</p> <p>①民間事業者の活用による魅力的なイベントの開催 現在は原則として月 1 回のミニイベントを実施しているところであるが、より集客力のある魅力的なイベントを企画して、開催回数も増やすべきである。イベントの企画と実施にあたっては、市内の民間イベント事業者の力を借りることが最も実効的な策と考える。</p> <p>②水木氏関連以外の企画展示の実施 水木氏が脚本を手がけた名作や水木氏そのものを知る者は、若い世代ほど少なくなるものと考えられることから、そのような人々にも水木邸に足を運んでいただくための仕掛けが必要である。そこで、水木氏の後進である女性脚本家など、水木氏に関連する様々なテーマの展示や企画を打つことで、その展示を目当てに来た人々が水木氏という人物やその作品に触れる機会を作るべきである。 また(仮称)文学館整備後は、文学館と連携した展示やイベントを実施し、相乗効果を図るべきである。</p> <p>③歳入増と歳出抑制のための様々な手法の導入 例として、歳入面では民間企業とタイアップし、パンフレットへの広告掲載や水木邸で実施するイベント名に企業名の冠をつける等により企業からの広告料収入や協賛金を得る方法、歳出面では費用が大きくかかっている樹木剪定等をボランティアで行ってもらう方法等を検討すべきである。</p> <p>なお将来、建物が老朽化して改修すべき時期となったときには、水木氏の顕彰方法について再度検討を行うべきと考える。</p>

<A2-1>

名称	中山文化村《清華園》
概要	石井家の自宅と土地の寄贈を受けたもので、中山法華経寺の参道入口の傍に立地。ボランティアによるガイドを行っているほか、寄席等を開催している。
課題	旧片桐邸と合わせた年間利用者数が合計 6,000 人程度にとどまり、利用者 1 人当たり費用は 2,000 円近くで推移している。
諮問事項	コストパフォーマンスの向上と、中山地区の文化・観光施設としての効果的な活用策について。
提言	<p>参道界限では公共下水道工事、無電柱化、店舗等修景整備など、名刹の参道に相応しい街並みが形成され、市民・法華経寺・行政の協働による賑わい創出のイベントも開催されている。市川市側と船橋市側の商店会が合同でキャンペーンを展開するなど、これまでも観光を中心として発展する環境は整いつつあることから、立地の良さを活かすとともに地元活力を大胆に取り込むことにより、清華園のポテンシャルを引き出すべきである。</p> <p>①休憩所としての機能の充実</p> <p>参道沿いに休憩場所が少ない中、庭園内に四阿が設置された清華園は休憩所としても利用できる。しかし、入口の重厚な門構えは参道を往く人々にとって入りづらい印象を与えるほか、建物も土足で入ることのできない構造となっている。現行の案内所としての機能に加え、生活道路としての実態もある庭園を含めた休憩所としての使い勝手や雰囲気向上の工夫や改善を施すべきである。</p> <p>②地元団体への無償貸与による運営</p> <p>清華園の管理運営について、商店会など地元の団体や利活用可能な団体等は無償貸与し、参道沿いの店舗の和菓子やお茶を休憩に訪れた来場者に有料提供できるようにするなど、地元にとってプラスとなり、行政にとっても経費がかからないような方法で、休憩所としての魅力を高めるべきである。</p>

< A 2 - 2 >

名称	中山文化村《旧片桐邸》
概要	片桐家の自宅と土地の寄贈を受けたもので、若手演奏家に発表の機会を提供するコンサートを開催している。
課題	<p>①清華園と合わせた年間利用者数が合計 6,000 人程度にとどまり、利用者 1 人当たり費用は 2,000 円近くで推移している。</p> <p>②現在、東日本大震災により損傷を受けて休館中。再開には改修が必要。</p>
諮問事項	コストパフォーマンスの向上と、中山地区の文化・観光施設としての効果的な活用策について。
提言	<p>法華経寺やその参道から離れた場所に立地し、一般の人々が訪れにくいこと、また建物の文化・観光資産としての価値は決して高いといえず、人々を惹き付けるほどの魅力も十分とはいえないことから、多額の費用をかけて建物を修復し運営を再開しても、本施設を訪れ、その利益を享受できる市民は極めて限定的と考えられる。建物は解体し、跡地利用を検討すべきである。</p> <p>①建物の解体 修復には数千万円の費用がかかると見積もられているが、莫大な費用をかけて同施設を改修するほどのインセンティブは見当たらない。建物や法面の倒崩壊のリスクを取り除くためにも、擁壁を修復の上、建物は解体すべきである。</p> <p>②公園化・庭園化等の跡地利用の検討 跡地利用については、建物にあるステンドグラスをモニュメントとして設置した公園や庭園として再整備することが考えられる。ただし、その際にはイニシャルコストやランニングコストが極力かからないよう留意すべきである。</p> <p>なお、旧片桐邸は市民より寄贈いただいた施設であるので、上記の対応も含めて、今後のあり方については、寄贈を受けた時と現在との環境が大きく変わっていることを踏まえながら、寄贈者と協議すべきものとする。</p>

< A 3 >

名称	郭沫若記念館
概要	<p>文学や歴史学、政治の分野で活躍した郭沫若氏が亡命中に過ごした市川市須和田の住宅を移築・改装し、同氏の功績を顕彰する施設として開設している。</p>
課題	<p>①現状の費用をできるだけ増加させることなく、入場者数を増加させて郭氏の功績を多くの人々に伝える必要がある。 ②芝桜の時期に年間入場者数の半数が訪れ、他の時期の利用が少ない。</p>
諮問事項	<p>費用を抑制しながら年間を通じた入場者数の増加を図る具体的な方策について。</p>
提言	<p>郭沫若氏は中国では極めて著名だが、日本ではあまり馴染みがない。郭氏が日中友好の架け橋となる活躍をし、本市が樂山市との友好都市締結をするきっかけともなったことを踏まえ、両国の友好を深めていく中での利活用を図りながら、郭氏を多くの市内外の人々に知っていただくためのより具体的な取り組みを行うべきと考える。</p> <p>①郭沫若記念館を訪れやすくする工夫 JR等とのタイアップによる散策・ウォーキングコースの設定や日中友好に貢献した人物を取り上げた企画展・イベントの実施、近隣の芳澤ガーデンギャラリーや須和田公園と連携した取り組みや人々を各施設に誘導する街中の公共サイン設置を行うべきである。また、中国等海外からの人々も受け入れられるよう、中国人留学生によるボランティアガイドの導入や、パンフレット等の多言語表記化を検討すべきである。 郭氏が日本ではあまり知られていないので、誰にでも理解しやすく親しみやすい施設名称に改めることも検討すべきと考える。</p> <p>②日中関係団体等との協力 各種のイベント・行事の開催、パンフレット作成、展示の充実、郭氏に関する調査研究等にあたっては、日中友好協会、日中友好に関する団体、中国大使館等にも協力を求めることを検討すべきである。</p> <p>なお、郭氏の顕彰にあたっては、郭氏が日本人の協力の中で亡命生活を過ごしていたこと等を踏まえながら、日中友好にも寄与できるよう配慮すべきである。</p>

2. 《博物館》

< A 4 >

名称	考古博物館、歴史博物館
概要	長い歴史と多様な文化を形成してきた本市域における、市民の共通歴史財産の保存とその有効活用を図る施設。
課題	<p>①建物等の老朽化が目立ち始めており、近い将来、大規模改修や建替えが必要となる時期に差し掛かってくる。</p> <p>②博物館付近では外環道の建設が進んでおり、それに合わせた公園の整備も予定されているなど、周辺地域の環境が大きく変化しつつある。</p> <p>③考古博物館が約2万人、歴史博物館が約2万5千人という年間入場者数は、博物館施設の規模に比べると入場者数が少ないのではないか。</p>
諮問事項	市民の共通歴史財産の保存とその有効活用のための方策について。
提言	<p>地域の歴史はかけがえのない地域住民の財産であり、特に堀之内貝塚等、市内の史跡の保全に関しては異論のないところである。一方、考古・歴史博物館に関しては、子どもたちや市民に対するより積極的な普及と調査研究成果の還元を意識した、ソフト・ハード両面での改善が必要と考える。</p> <p>①子どもたちへのより具体的・積極的な教育普及 歴史の教育・学習は、先人の知恵や経験を現代に応用して社会を発展させるサイクルの礎であるから、本市域の歴史に関する子どもたちへの教育普及の強化を、一層具体的かつ積極的に行うべきである。市内全校から児童が訪れるようにするとともに、子どもたちを対象とした行事・イベントや学校への出張講座等を計画的に実施すべきである。</p> <p>②学芸員による館内外での普及活動の強化 学芸員のこれまでの研究成果が市民により広く還元される工夫をすべきである。館内では定時開催の学芸員によるガイドツアーの実施、館外では公民館等での生涯学習講座への出講、市民まつり等での講座・体験教室の開催、図書館等人通りの多い場所への出張展示など、学芸員と市民とが接する機会や市民が収蔵品に触れる機会を、より増やすようにすべきである。</p> <p>③長期的展望 施設更新が近い将来必要となることに備え、庁内外での議論を早期に開始すべきである。その際、考古・歴史両館の統合のほか、より来館しやすい場所等、展示場所についても必ずしも現在地にこだわらず、市民等への研究成果の還元とコストの抑制を最重視しながら検討を行うべきである。</p>

< A 5 >

名称	自然博物館
概要	東京に隣接する本市に残る貴重な自然に気軽に触れながら、本市の自然を学べる施設として、動植物園内に設置されている。
課題	<p>①自然博物館と動植物園とでは入場料や所管する組織等が異なっている。より効率よく管理運営する余地がある可能性が考えられる。</p> <p>②動植物園との直接的な関連性が薄い。両施設全体での魅力を高めるなど、動植物園という立地条件をより活かした展示活動の充実が求められる。</p>
諮問事項	より効果的に運営していくための、目指すべき方向性とその具体的手法について。
提言	<p>本市に残された貴重な自然環境である長田谷津(自然観察園)を活用した観察会等を開催したり、学芸員が各学校に出講したりする等、館外にも出向く積極的な活動は、特に子どもたちへの教育的効果が高く、是非今後も続けていくことが望ましい。一方、施設の管理運営形態に関してはなお一層の改善余地があり、より効率的かつ効果的な管理運営方法を検討することが有効と考える。</p> <p>①動植物園との入館料のねじれ解消 自然博物館は入館無料だが、有料施設である動植物園内にあるため、自然博物館のみ利用する場合には動植物園のゲートを無料で通過して入館させる措置がとられている。こうした措置は施設の管理運営上好ましいものではなく、改善すべきである。自然博物館のみの利用であっても動植物園の入園料を徴収する等、有料化も検討すべきと考える。</p> <p>②動植物園との統合、管理一元化 自然博物館と動植物園の管轄はそれぞれ教育委員会、市長と異なっているが、自然博物館は動植物園の管理棟内に設置され、動植物園が管理する自然観察園を活用した講座やイベント等を展開している。両施設を統合することで、管理の一元化による運営効率化と市民向け事業等における相乗効果の増大を図るべきである。</p> <p>なお、今後の自然博物館の方向性を検討するにあたっては、博物館法に基づく公立の登録博物館として活動し一定の評価も得ていることを考慮すべきである。そのうえで、さらなる経営の効率化や自由な活動の促進のため、動植物園との一体運用や、博物館法に基づく登録博物館から博物館類似施設への移行も含めてあらゆる可能性を検討すべきである。</p>

3. 《公園施設》

< B 1 >

名称	大柏川第一調節池緑地ビジターセンター
<p>概要</p>	<p>大柏川第一調節池緑地は、千葉県が大柏川の調節機能を確保する目的で整備した調節池の一部を県から占用を受け、市川市が整備したもので、水辺の自然環境の保全と復元を図り、水辺の動植物にふれあえるなど自然環境の学習の場として利用するとともに、大柏川流域の歴史、地域文化の継承と発展に努めることを目的に整備された都市緑地である。</p> <p>ビジターセンターは、同緑地の管理事務所と体験学習等ができる多目的集会室を併用した施設として平成19年6月に開設したものである。</p> <p>なお、同緑地の整備に当たっては、市民団体や学識経験者、市、県によるワークショップ及び検討会の意向が反映されており、施設の管理運営には市民ボランティア団体が積極的に参加している。</p>
<p>課題</p>	<p>ビジターセンターの建物だけでなく、周辺の広場や駐車場のエリアを含めて、広大な緑地内の広場という周辺環境、幹線道路に面しているといった立地条件など、同緑地が持つ特性を生かした有効活用策を進め、活性化を図りたい。</p>
<p>諮問事項</p>	<p>ビジターセンター及び周辺の広場、駐車場エリアの有効活用に向けて、目指すべき方向性とその具体的手法について。</p>
<p>提言</p>	<p>①施設の目的の明確化</p> <p>自然環境創造型施設として整備された経緯があるにもかかわらず、利用目的が明確化されていない。今後のコンセプトとして、より「自然を愛でる」ことを強調しこれをベースとしたうえで、自然の概念をさらに吟味し、水辺での軽音楽、弾き語り、詩吟なども自然を愛で親しむ範囲とするなど、利用目的の範囲をより広め取る方向で検討すべきである。そうしたうえで、現状より幅広い様々なイベントの開催など、ビジターセンター及び周辺の広場、駐車場エリアを含めた有効活用策を検討すべきである。</p> <p>②施設の魅力の向上と利用者の満足度の向上</p> <p>緑地の周囲を一周できる周回路の整備などにより利用しやすくすべきである。</p> <p>また、学校や一般利用者・近隣住民にアンケートを取ってニーズ・課題の把握及び改善を図り、利用者増につなげるべきである。</p> <p>③施設の認知度の向上</p> <p>案内板等の表示方法の改善、ホームページの拡充やわかりやすい名称への変更を検討すべきである。</p>

4. 《貸館施設》

< B 2 >

名称	地域ふれあい館
概要	<p>公民館が整備されていない地域の市民のふれあいの場として、またサークル活動・講習・イベントなどの地域コミュニティ活動の場として、従来設置されていた青少年館を平成 18 年度にリニューアルして設置されたもので、総武線や東西線の高架下を中心に市内に 13 館設置している。</p>
課題	<p>青少年館として昭和 40 年代後半から昭和 50 年代半ばまでに設置されたものが多く、施設の老朽化が進んでいる。また、13 館中 11 館は JR または東京メトロ高架下に設置されていることによる土地賃借料や維持管理をするための非常勤職員の賃金がコストの大きな比重を占めている。</p>
諮問事項	<p>さらなる稼働率の向上策と地域コミュニティの活性化を図るために地域ふれあい館として果たすべき役割について。</p>
提言	<p>①施設の強み(高齢者雇用、サークル活動の場)を活かした活用 地域ふれあい館は、利用者も非常勤職員もふれあい館付近に居住しており、地域ケアや放課後保育クラブなど、地域の実情に合わせた施設を併設するなど地域に密着している施設である。そういったことから、利用者、スタッフを活用して地域を活性化させることが必要であると考えます。 そこで、地域ふれあい館も単なる貸館機能にとどまらず、主催講座の実施や駄菓子屋や子ども会主催の行事など地域コミュニティ形成に役立つ施策の実施を検討すべきである。</p> <p>②利用者の幅を広げるための工夫 ふれあい館では数多くのサークルがさまざまな活動を行っているが、そのサークルの告知方法は広報のみと数少ない。ふれあい館の中には壁を利用して地域のサークル等の案内をしているところもあり、その館は活気があるように見受けられた。そこで他の館でも同様に壁を提供して、サークル交流コーナーを作ることを検討すべきと考えます。 なお、地域ふれあい館がさらに活用されるよう、各館の成功事例を他の館に取り入れることができるような仕組みづくりを積極的に検討すべきである。</p> <p>③長期的な方向性の検討 地域ふれあい館の建物は軽量鉄骨造であるが、5 年後に法定耐用年数を超過する建物は 13 館中 11 館となる。今後の維持管理コストの高騰を招く前に、地域ふれあい館の目的、効率性等を踏まえて、今後の方向性を決定すべきである。</p>

< B 3 >

名称	アイ・リンクセンター（I-link ルーム/ホール）
概要	<p>市川駅前のタワーズイースト 3 階に位置し、市川駅行政サービスセンターに併設されており、市民の相互交流の場として、会議や打合せに利用できるアイ・リンクルーム 3 室と発表会やバレエ、書道等多目的に利用できるアイ・リンクホールで構成されている。</p> <p>事業などを行っていない貸館のみの施設であるが、平成 20 年 12 月に設置されたばかりの施設であることから、バリアフリーの施設もそろっている。</p>
課題	<p>立地条件を生かした取り組みを行うなど、稼働率、利用者数の拡大を図ってきたが、駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要。</p>
諮問事項	<p>駅前という立地条件を生かした更なる有効活用策について。</p>
提言	<p>①PRの強化</p> <p>名称が施設の場所（アイ・リンクタウン）からつけられたものであるゆえに、公民館などと異なり施設名称から市民に部屋を貸出する施設と認識されにくいと考える。一方でアイ・リンクセンターは市川駅行政サービスセンターに隣接し、多目的トイレや授乳室、調乳ポット等が用意され障害者や乳幼児連れでも気軽に来所できるという強みがある。</p> <p>今後安定的に高い利用率を維持していくために、駅近や施設面などの強みを活かしたさらなるPRや市の主催事業の開催等、市民に対する認知度をさらに上げるための方策の検討を行うべきである。</p> <p>②市民の利便性の向上と効率性の強化</p> <p>現在の利用者のレポートや新しいサークル等の活動により、アイ・リンクセンターの利用率は今後とも伸びていくことが考えられる。利用団体数や利用団体のニーズを踏まえ現在の午前、午後、夜間の3コマの貸出区分を見直し、利用可能コマ数を拡大して市民が利用するチャンスを増やすこと等も検討すべきである。</p> <p>また、隣接した行政サービスセンターは平日 8 時 45 分から 20 時まで、土曜日も 8 時 45 分から 17 時まで窓口が開いている。現在、受付窓口は行政サービスセンターとは別となっているが、開館時間が重なっていることが多いので、窓口の一本化を検討すべきである。</p>

< B 4 >

名称	八幡市民談話室
概要	<p>駅に大変近い交通至便な場所に位置しており、市民の交流の場としての貸館施設としての位置付けだけではなく、地域文化情報や国際交流、観光情報の発信を行う市の案内施設としての役割も担っている。</p>
課題	<p>案内施設としての役割については、駅に大変近い交通至便な場所に位置していることから、その立地条件を効果的に活用すべきであるが、現在、1階の市の案内コーナーでは、委託による係員 1 名の配置の他、市案内マップ、文化振興財団の催し案内の掲示、市広報等が置いてあるだけで、市の案内施設として、十分機能しているとはいいい難い状況と言える。</p>
諮問事項	<p>駅前施設に相応しいインパクトある機能を有した施設とするための具体的な手法について。</p>
提言	<p>①効果的な周知方法の導入</p> <p>文化・観光情報案内所という機能と市民談話室という名称が一致していないこと、また、スクランブル交差点に面しており多くの人の目に触れるにもかかわらず、建物を見ても何を行っている施設なのかわからないことから、入りづらいと考えられる。</p> <p>そこで、より多くの市民や市民以外の方に向けて、この施設で何をしているのかを周知するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民談話室の名称を実態に沿った名称に変更する ・多くの人の目に留まるように、外観部分(外壁)をもっと活用することを検討すべきである。 <p>②貸館スペースの拡充</p> <p>現在、3階のマイギャラリー、4・5階の集会室を市民に貸し出しているが、さらなる施設の有効活用を考えるならば、6階事務室を移設し集会室を拡充することが可能か検討すべきである。</p> <p>③長期的展望</p> <p>例えば、市川市の魅力を味覚で伝える施設とするために、可能ならば、地産地消のレストランの設置や、玄関スペースで、梨など地場産業に結びつくものを販売することが可能か否かを含め、今後のあり方について議論すべきである。</p>

< B 5 >

名称	南行徳市民談話室
概要	<p>地域社会の振興及び市民福祉の増進を図るため、市民のコミュニティ活動の拠点として、南行徳市民センターという複合施設の2・3階に設置している。</p> <p>本施設が設置されている行徳地域は昭和40年代後半から開発が始まり、新旧の住民が混在しており、尚且つ、外国人の居住者が多い土地柄であることから、地域コミュニケーションの醸成に寄与することも役割としている。</p>
課題	<p>南行徳市民センター自体は、地域の要望により、1階に市民課窓口、4・5・6階に保健センターと、さまざまな機能を盛り込んだ複合施設であるため、センター全体としては有効に活用されていると考えているが、貸館機能を担う市民談話室としては、駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要と考える。</p>
諮問事項	<p>駅に大変近い場所に位置していることから、この立地条件をより生かし、設置目的に合った更なる有効活用策、利用率の向上策について。</p>
提言	<p>①施設の魅力のPR</p> <p>防音機能があるなど貸館の機能は、充実しているのだから、インターネット等を活用し施設の良さをもっと強調し、市民の認知度を上げるべきである。</p> <p>また、転入者や外国人が多いことから、気軽に使えるように、外国語対応のパンフレットを作成するなど、利用方法や登録方法などをもっと周知すべきである。</p> <p>②施設の積極的な活用</p> <p>地域社会の振興を目的としているのであれば、そのために何か仕掛ける必要がある。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用し、 既存サークルの活動内容の紹介を行う ・外国人との交流の場をつくる ・併設の保健センターを利用する親子連れをターゲットに、 親子・子育てサークルをつくる <p>ことを検討すべきである。</p>

<貸館施設(B2～B5)に対する共通意見>

<p>提言</p>	<p>今回対象となった貸館施設全般にいえることは、それぞれの設置目的、特徴が市民からみて不明瞭であるということである。</p> <p>また、立地条件や設備などといった個々の施設が持つ「強み」を活かしきれていないと感じられた。</p> <p>そこで、</p> <ul style="list-style-type: none">・各施設の特長、目的、対象者を明確にし、市民に施設の「強み」をもっとアピールするなど、積極的な利活用を働きかけること。・それぞれの設置目的に応じた運営の仕方を工夫するとともに、貸館同士の横の連携を深め、成功事例を共有することにより利用者の満足度を高めること。 <p>を検討すべきである。</p> <p>また、</p> <ul style="list-style-type: none">・災害時に果たす役割を明確にしたうえで、非常の事態に対応するための「防災・減災マニュアル」を整備すべきである。 <p>さらに、市のウェブサイトにおいても</p> <ul style="list-style-type: none">・施設ごとの情報量の差が大きく、必要な情報が得られない施設がある。・施設予約システムは空き部屋の検索がしにくい。 <p>といった問題を改善すべきである。</p>
-----------	---

附帯意見

※「提言」には盛り込まれなかったが、今後の参考にすべき委員個別の意見があるので、「提言」と合わせて参考とされたい。

<A 2-1>中山文化村《清華園》

- ・地元の街づくり協議会等に資産を無償貸与し、街の魅力を高めるために自由な活動をさせることができないのであれば、当該施設は処分すべきだ。

<A 2-2>中山文化村《旧片桐邸》

- ・（他の同様の施設を含め）寄贈を受けた施設だからといってそのままにするべきではなく、利活用や処分も含め自由な発想で検討し、実行をすべきだ。

<A 4>考古博物館、歴史博物館

- ・学芸員を対象とした行政実務に関する研修等をとおして、市川市立の博物館に属する学芸員としての職を、より高めていただきたい。
- ・展示・イベントスタッフと研究スタッフを分け、展示・イベントは学芸員でなく民間のボランティアやサポーターに協力していただく方法も考えられるのではないか。
- ・国指定の貝塚や古代の遺跡が多い市川市に博物館は是非必要。現在貝塚のある場所に博物館があるのはよいと思うが、建物の老朽化の問題、考古と歴史両館を統合させ、外環道の開通に伴って、その周りの環境にまじり合った博物館、文教都市市川に相応しい博物館が出来ることを願っている。

<A 5>自然博物館

- ・自然博物館のパンフレットに広告を載せるなど企業とのタイアップを考えれば、一般財源の持ち出し額を少しは減らせるのではないか。

<貸館施設(B 2～B 5)に対する共通意見>

- ・あまりにも安く貸し出すことにより、民業を圧迫することがないように配慮すべきである。また、企業への貸し出しについては、一度考え直したほうがよいのではないか。

「施設のあり方について」答申 補足資料
「施設の有効活用にかかる公開検討会」 当日の主な質疑応答及び意見

1. 《文化施設》

<A1> 水木邸

質 疑	回 答
①毎週公開した場合の問題は何か。	①基金充当先は公開日の管理委託経費。公開日が増えると基金の消耗が早くなる。また、施設内の資料整理が完全に終わっていないため、日数を限定している。
②女性脚本家を取り上げた企画展について、どのように考えているか。	②現在は文学プラザで学芸員が研究をしており、資料の整理が進んでいる。本市としても林芙美子氏の企画展を考えたい。これまでも文学プラザでは関連する脚本家の紹介をさせていただいている。
③コストをかなり抑えているとは思いますが、大規模補修も考えられる。どういう節減策をとっているか。	③草むしりや梨の木の剪定等に、サポーターの協力を得ている。今後も引き続きお手伝いをお願いしたい。
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国の水木洋子氏のファン、サポーターの集いを開催してはどうか。参加者の希望があれば年1回でも定例化してはどうか。 ・基金があるうちは今の形でやっていくのが適当だが、いずれは建物が老朽化し、基金も尽きる。そのときは、映像文化センターで水木邸の3次元映像やミニチュアモデルを公開・展示するなど、よりコストの掛からない手法を検討すべきである。 ・季節に応じて展示する生活資料(着物等)の展示替えを行っているようだが、それだけではリピーター獲得には難がある。映像文化センター(文学館)と連動して枠を広げてほしい。 ・映像文化がひとつのキーポイント。常設の部分と、範囲を広げて近代の映像文化に関わる特別企画展等はどうか。 ・文学館とのタイアップイベントを行ったり朗読会や文芸グループにも呼びかけたりして、水木洋子を語る会のようなイベントを、水木邸を提供して行ってみてはいかがか。 	

< A 2 - 1 > 中山文化村《清華園》

質 疑	回 答
質疑なし。	
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・「市民のため」というよりも観光の視点に重きを置いて、参道の休憩施設兼観光施設として利用者を増やすべきと考える。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政が管理してどんどんお金が出て行くよりも、資産を無償で地元の街づくり協議会や中山法華経寺に無償貸与して、街の魅力を高めるために、収益を上げることも含め自由に活動させるべきだ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携強化を。地域の和菓子やとタイアップして、お茶とセットで 500 円のようにして販売し、休憩所としてはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・中山窓口連絡所に市職員がいる。二重行政になっているのではないか。運営をボランティアグループに任せ、管理を市民課が行えれば、職員は一人で済むのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・休憩所としてお茶が飲めるような、どなたでも入りやすい雰囲気。入り口はあまり入りやすいと感じられない。 	

＜A2-2＞ 中山文化村《旧片桐邸》

質 疑	回 答
①旧片桐邸をいつまでにどうすべきか、市で検討したか。	①サンデーマチネーコンサートを行い、若手育成を図っているが、改修すれば、音楽をいつでも行っている「音楽の館」的存在となって、中山地域の魅力を高める資産になりうるものと考えている。
②建物の文化的価値を調査し、結果はいつ出るか。	②昭和初期の建物であり、伝統的建築物ではないが主要な建築物とはなりうるとの調査結果が出ている。
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約時と状況が変化しているので、旧所有者と当事者同士で話し合っ、具体的にどうしていくのかを検討すべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物には文化的価値はあまりないとする。市川市内にあの程度の建物は数百あると思う。数千万円掛けて修復するほどのものではない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手演奏家の発表の場は別の場所でしっかり確保を。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 改修せず放置することは、安全面、防犯面等で問題がある。市としてはっきりと結論を出していただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物自体に文化資産・観光資産として市民を惹き付ける魅力があるかという疑問がある。 	

＜A3＞ 郭沫若記念館

質 疑	回 答
①郭氏は日中友好に貢献した6人の1人とされている。市川市役所として、どれくらい本気で郭沫若記念館を日本中・世界中の人に来てもらおうと売り込む気であるのか。	①市として郭氏を国家戦略的観点から捉えるほどまでは考えが及んでいなかった。
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・日中友好関連イベントを開催して、日本に暮らす中国人同士の交流の場として活用できるのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・展示の説明やボランティアによるガイドでは、郭氏が多くの日本人の協力をもらいながら亡命生活を過ごすことができたということを積極的に説明すべきだ。こうした取り組みが日中友好にも寄与するのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと来客者数を増やすには、近隣の芳澤ガーデンギャラリーや須和田公園との連携も必要。「徒歩〇分」のような案内サインがあればわかりやすいのではないか。市民でも市民でない人も行きやすいよう、周辺施設とリンクしてバラを植えるなどするのは良いと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・今の展示ではマンネリ化する。日中友好に視野を広げれば、常設展以外にも日中友好に関わる様々な展示ができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり展示に変化がないので、リピーター獲得にはつながらないかと思う。展示だけでなく関連したイベントの実施も考えてみてはいかがか。 	

2. 《博物館》

< A 4 > 考古博物館、歴史博物館

質 疑	回 答
①老朽化し傷みが多施されているのか。	①耐震診断を行った結果、双方とも一般の使用に差し支えない状況を保っているとの評価だった。そのため耐震工事は考えていない。
②庁内ではいつ頃までに建て替えるのかを検討しているか。	②建て替えの検討には至っていない。
③時代を分けて博物館を設置する必要があるのか。	③両館それぞれの目的で訪れる方々がいるなど、利用形態は様々である。2館の展示内容が違っており、一概に重複とは考えていない。
④国内に5千数百あると言われる博物館の大半が、博物館相当施設として法律の枠外で運営されている。入場料を徴収していないことのほか施設の設備や人員体制等が法律で縛られている状況の中、あえて博物館として維持し、法の枠組みに縛られる必要があるのだろうか、博物館としてのメリットは何か。	④博物館法は原則無料としているが、運営に必要な場合は徴収も可能となっている。公立博物館としての使命を十分に果たすためにも、公立博物館は教育委員会の所管と定める同法による登録博物館としての運営が望ましいと考える。
主な意見	
・博物館等の公共的な建物は人通りの多い場所に移すべきだ。現在の場所では側道も狭く、これ以上来館者を増やすのは難しい場所であると思う。	
・建物の寿命がある間はただしも、その後は駅近くの空き教室に移転し、郷土資料館としてやっていく方向を選択すべきだ。	
・子供たちにはこういった社会的共有財産に触れてほしい。フェスティバルの回数をもう少し増やしたり、緑の芝で食べたり飲んだり遊んだりできるような企画を練るなど、市民が体験できる機会を増やしてはいかがか。	
・考古博物館と歴史博物館をあえて分ける必要はない。片方に集約すれば人員も経費も1館分で賄えるのではないか。年間1億1千万の赤字は、民間ならば大変な責任問題になるくらいの金額だ。	
・小学生がなるべく早い段階で考古・歴史博物館の展示を見ることは非常に良いことであり、教育上も様々な意味で問題意識を起こさせる。	

＜A5＞ 自然博物館

質 疑	回 答
①市役所としては、利用者を増やすのと管理運営費を削減するのではどちらに力点を置いていくのか。	①たくさんの方に知っていただくことが自然博物館の使命でもあるので、利用者を増やしたい。ただ、昨今の厳しい財政状況を踏まえ、最小の費用で効果を出したい。
②動植物園と一体となったイベントはあるのか。	②家族の日(11月20日)に合わせ、動植物園と少年自然の家と合同で、クイズのウォークラリー開催等のイベントを実施している。
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・あの自然を守るだけでも価値があるのではないかと。都会の子どもたちは自然の中で遊ぶ機会が少なく、市川市の貴重な財産として維持管理すべきだ。維持管理費が多少かかっても市民から文句はでないのではないかと。むしろ市としてもっと誇りを持ったほうがよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・水光熱費も動植物園と同じであるならば、例えば自然資料館に名称変更して動植物園を管理している水と緑の部に移管して、管理を一元化し運営の効率化を図ることが魅力的な改善案ではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・入口が有料施設である動植物園と同じであることには疑問がある。動植物園と一体化し、入場料金を多少値上げしても、自然博物館から動植物園までくまなく周って見るくらいの価値はあるのではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の管轄を離れて市長部局の管轄とすることで、小学校との連携がしづらくなるなど運営に支障が出るようなデメリットがあるのか十分検討すべきだ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察園と自然博物館を一体となるのがよいのではないかと。 	

3. 《公園施設》

＜B1＞ 大柏川第一調節池緑地ビクターセンター

質 疑	回 答
①所管課としてはなぜ利用が一定の範囲に限られていると考えているか。	①まず、市民団体や地元、県、市で検討し、調節池内の自然環境創造型施設として整備してきた経緯がある。PRの不足や地域性、交通手段の問題もあったと思うが、自然環境創造の概念を固守してきたため多様なイベントに利用されなかったということが、市民の認知度や興味の不足につながった部分があった。
②自然環境学習の場や地域文化の継承・発展といった目的を達成するために、市としては具体的に何をしているのか。	②行政としては、特にそういったものについてイベントや企画はやっていないが、利用者の中から生まれたイベントとして市民ボランティア団体が民話を伝える会などをやっている。
③いわゆる自然を愛でる人を多く呼びたいのか、それとも元々の趣旨から離れたいわゆる一般の市民ももっと多く来てもらっていいのか。	③やはり自然環境の保全・復元が目的ということから、基本的には自然環境への理解・興味がある人を呼び込みたいと考えている。その上で、一般の人が来ることで目的を理解してもらって利用者が増えることは歓迎するし、そのように仕向けていきたい。
④集会室の利用状況を見ると、平成20年度は利用したが21年度以降は利用しなかった団体が多い。そういう団体に今年は利用しませんかと呼びかけたり、アンケートを取ったりはしていないのか。	④過去に利用があった団体への呼びかけやアンケートは特に行っていない。
主な意見	
・ 施設の認知度、魅力を高める努力をすべきである。	
・ 自然環境活用ゾーンを含めた総合的な利用という観点から方向性を探るのが望ましい。	
・ 環境学習ができる場として、学校等のニーズや利用者の声を把握して反映させ、もっとアピールしていくことが必要だ。	
・ 水辺での軽音楽、弾き語り、詩吟なども自然を愛で親しむ範囲として解釈を広げてはどうか。	

4. 《貸館施設》

< B 2 > 地域ふれあい館

質 疑	回 答
①稼働率の高いところと低いところの要因の分析をしているか。	①駅近でふれあい館付近の人口密度が高い場所については稼働率が高く、逆に駅から遠い、ふれあい館付近の人口が少ない場所での稼働率は低いと認識している。また、設備面として、部屋の数が少ないところ、高齢者の利用が多く和室については稼働率が低いと認識している。
②13館の担当者が集まって、成功事例を話すなどの横の連携を取っているか。	②横の連携を取るための方策はとっていない。
③利用者の満足度をどう捉えているか。	③利用者の満足度を把握するための調査は実施していない。実質的には、地域サークル等が公民館の代替施設として活用していることが多いと考えている。
主な意見	
・ 施設の存在をアピールする必要がある。	
・ 老朽化も進んできているので、統廃合を含めて改めて検討する時期に来ている。	
・ 収支バランスを良くすることも大切であるが、それだけで判断するのはよくない。本施設は高齢者雇用の場として非常に貴重なものであると思う。	
・ 地域の実情に沿った形で運営を検討すべきだ。	

＜B3＞ アイ・リンクセンター（I-link ルーム/ホール）

質 疑	回 答
①同じアイ・リンク内にある保育園や図書館の看板は目に付くが、アイ・リンクセンターの看板は目に付かない。告知をどのようにしているか。	①駅から見えるアイ・リンクホールの壁面に「アイ・リンクルーム・ホール」という看板を、また特大のポスターを壁面に掲示している。
②このアイ・リンクセンターのみ企業の利用を認めるのはなぜか。	②公の施設はすべて住民の福祉の増進を目的に設置している。このうち、文化会館、市民会館、行徳公会堂については、営利目的の利用を明確に認めている。それ以外の施設については、営利目的の貸出を明確に禁止する文言はないが、設置目的を踏まえた上で、個別的に判断をしているところである。
③現在の利用形態は、12時間の開館時間のうち、昼と夕方にそれぞれ1時間ずつの休憩時間を設定しているが、これを変更して3時間の中で利用団体が掃除し、もうひとコマ増やすことができるか。	③利用者の意見を踏まえながら、利用者が希望するようであれば時間枠の変更を検討したい。
主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・授乳室・オムツ換えのスペースなど、子連れにやさしいという側面をもっとアピールしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コストの半分は人件費である。行政サービスセンターの窓口受付時間中は、サービスセンターの受付窓口で鍵の受領を行うなどの工夫をしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用可能コマ数を増やす工夫をしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・施設名称をわかりやすくする工夫をしてほしい。 	

＜B4＞ 八幡市民談話室

質 疑	回 答
①所管として、利活用の方法として具体的に考えていることはあるか。	① 1階部分に観光案内所のような施設を入れ、観光案内機能及び公衆を対象とした市、自治会や商店街、学校の催しなどの行事の総合案内所を提供できる施設、市民の文化・観光情報の集約施設としたい。サイン・入り口部分の手直しも考えている。
② 6階に国際交流協会の事務室があるのに、下の階で国際交流目的のフロアがないのはなぜか。広く見ると、国際交流も文化・観光につなげられると思う。	② 国際交流協会といっても、6階部分を事務室として貸しているだけである。1階に国際交流協会の会報を置いており、そういった意味では文化国際情報も発信している。
主な意見	
・ 談話室といった名称を、実態に沿った名前に変更すべきだ。	
・ 壁面を活用し、市内の文化イベントの周知をしてはどうか。	
・ 英語・中国語・韓国語表記の史実パンフレットを用意するなど、海外から市川市を訪れた人への配慮も必要である。	
・ 見せるだけでなく食べるということで市川をアピールするために、地産地消のレストランを設置してはどうか。	
・ 6階の事務室を移転し、集会室を設置してはどうか。	

＜B5＞ 南行徳市民談話室

質 疑	回 答
①外国人の方でも気軽に使えるシステム、案内はあるのか。	①今のところこれといったものはない。現在ご利用頂いている方は、日本語のわかる外国人や、地域サポートの方といらっしゃる外国人が多い。
②談話室の位置付けは、コミュニティ活動の拠点ということだが、外部から新規に入ってきた人達に対して、既存のサークルへの新規加入についてどのように対処しているのか。また、外国人が多いということで、案内の多言語化はされているのか。	②既存の団体に新しく入りたいという方には、名簿を用意している。代表者の名前や連絡先、どのような活動を行っているかが、一覧になっているので、それをもってご案内をしている。 外国語の対応はできていない。
主な意見	
・新しい市民や外国人住民に対し、年に数回あるいは定期的に、手軽に使えるように使い方を案内する方法や登録方法の周知が必要だ。	
・インターネットを利用して多言語への取り組みをしてはどうか。	
・保健センターが併設されているので、親子・子育てサークルなどへの働きかけをしてはどうか。	
・外国人との交流の場を仕掛けてほしい。	
・インターネットを活用し、既存サークルへの新規メンバー募集案内を行う掲示板を作成してはどうか。	

＜貸館施設(B2～B5)に対する共通意見＞

<p>・貸館の所管ごとに考えるのではなく、市としてどのように考えるかということを明確化すべきだ。</p>
<p>・それぞれの設置目的に応じた運営の仕方を工夫すべきだ。</p>
<p>・市のホームページに貸館バナーをおき、日時・場所・人数・目的などで簡単に検索できるようにする。また、電話などでの予約サービスもできるようにしてほしい。</p>
<p>・携わっている職員が稼働率を上げたらインセンティブを与えるなど、職員の持っている能力・知識を活かすべきだ。</p>
<p>・非常の事態に対応するための「防災・減災マニュアル」を整備すべきだ。</p>
<p>・施設予約システムを構築するときに、利害関係者として市民を参加させるべきだったと思う。今後新しいシステムを入れるときは、開発の段階から市民の代表をいれるべきだ。</p>